

○ みらいちゃんの棚田教室 in 加茂小学校 令和8年6月15日

- 佐渡市立加茂小学校の5年生を対象に、棚田教室を実施。
- 歌見の棚田（協力：UKUU）において、棚田の水路を利用した小水力発電について説明したほか、もみをフィルム上に包みひも状にしたもの（シーダーテープ）を用いて、直播体験を実施し、棚田の地形を活かした利用や、米作りの工夫について学んだ。
- 次回は7月1日に「生き物調査」を実施予定。



地域の活動と棚田の現状についての説明



小水力発電施設の説明



集合写真



直播体験の様子



小水力発電施設



ふりかえり学習

水の力で電気をつくる！

歌見の棚田では、水路を活用した小水力発電に取り組んでいます。

子どもたちは、実際の発電装置を見ながら、

- ・水を流して電気を作ること
- ・少ない水でも発電できること
- ・環境にやさしいこと

などを学びました。



▲▶小水力発電の説明の様子
発電した電気は蓄電され、バッテリー式草刈り機などの電力として使用

「自然の力を活用しながら棚田を守る新しい取組」が子どもたちに強く印象に残ったようです。



棚田を守る人たちの努力を知る

地域の方々の話を聞いた子どもたちは、棚田を維持するための苦勞に驚いていました。特に、

- ・棚田を守る人が少なくなっていること
 - ・棚田を維持するためにはお金も必要なこと
 - ・耕作放棄地が増えていること
 - ・少ない人数で広い棚田を守っていること
- などが印象に残ったようです。

子どもたちは、棚田の美しい景観は地域の方々の努力によって支えられていることに気づきました。

棚田がなくなったら、どうなる？

振り返りでは、棚田でお米が作られなくなった場合について考えました。子どもたちからは、

- ・おいしいお米が食べられなくなる
 - ・生き物のすみかがなくなる
 - ・土砂崩れが発生する
 - ・佐渡や新潟の魅力がなくなる
- といった意見がありました。

子どもたちは、棚田がお米をつくる場所であるだけでなく、地域の景観や生き物、人々の暮らしを支える大切な存在であることを学びました。



棚田から広がる、子どもたちの新しい視点



みらいちゃんの棚田教室

in 加茂小学校

小水力発電って何だろう？



直播体験をしたよ！

▲もみをフィルムに包みひも状にしたシーダーテープを活用して、子どもたちが土を被せる直播体験を行いました



◀草刈り機の実演



思ったよりも簡単にできたよ！

棚田の未来を支える新しい挑戦

受入地域の声 (UKUU)

加茂小学校の皆さんと交流する機会をいただき、大変うれしく思いました。棚田教室を通じて、子どもたちが農業や地域に興味をもってもらえたらうれしいです。今後も受け入れを続けていきたいと考えていますが、継続するためには、学校との調整や準備を円滑に進めるための仕組みづくりも大切と感じています。

教育現場の声 (加茂小学校)

子どもたちは様々な切り口から地域を見つめ直す機会を持つことができました。学校教育の中では、地域が抱える課題に焦点を当てて学ぶ機会に限られています。地域の抱える課題について考えることができる、大変意義深い取組だったと思います。